

クィアと宗教研究会

代表者：先端総合学術研究科 一貫制博士課程2回生 OUYANG Shanshan

問題意識と解決すべき課題

性的マイノリティと信仰をめぐる諸問題に関する研究の展開は、主にキリスト教圏が着目され、キリスト教的な規範性、異性愛規範の超克を目指すかたちで、1990年代後半から展開され、近年クィア・スタディーズと神学において徐々に研究の厚みを増している。しかし、アジアにおけるクィア・スタディーズと神学の検討は西洋より遅れ、キリスト教圏以外の仏教、イスラーム教に関する研究はいまだ不十分と考えられる。

本研究会は、アジアにおける性的マイノリティ運動の中で、宗教はどのような影響を与えているのか、加えてこの影響により当事者はどのような戦略を考えているのか、この二つの問題点を中心に検討する。

目的 | 性的マイノリティと宗教の関係

クィア理論と神学の視点で、アジアにおける性的マイノリティであるLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）と宗教（キリスト教、仏教、イスラーム教）の関係について考察する。

特に注目したいのが先行研究において、クィア神学とイスラーム信仰、性的マイノリティ運動と宗教団体の関係である。

今後アジアにおける（または特定の地域における）クィア理論と神学の研究動向を検討する。

研究会のもう一つの目的は、1, 2回生が学会発表の能力を身に付けることである。

研究成果と発表実績

全体的に異なる分野で性的マイノリティの研究をしているメンバーたちは、アジアにおけるクィア神学とイスラーム信仰、性的マイノリティ運動と宗教団体の関係に関する先行研究、文献資料を分析し、議論を通じ、今後の研究動向を検討した。

注：クィア神学研究者の朝香知己氏をゲストとしてお招きして公開研究会を開催する予定は新型コロナウイルスの影響で中止になった。

【口頭発表・査読あり】

○長島史織, 「クィア・ムスリムについて」日本平和学会2019年度 秋季研究集会分科会, 新潟県立大学, 2019年11月2日

○欧陽珊珊, 「台湾における性的マイノリティ運動と宗教の関係」日本平和学会2019年度 秋季研究集会分科会, 新潟県立大学, 2019年11月2日

開催内容

★論文講読会 5回

「クィアと宗教」に関する重要文献・論文の輪読を行うことを活動の基本とし、担当メンバーがレジュメを作成し、発表した。

★講師招聘会 1回

哲学研究者の酒井麻依子氏（立命館大学文学部初任研究員）をゲストとしてお招きして、哲学的アプローチ、他者論的な視点で検討した。また、講師は学会発表の仕組みと経験を教え、メンバー2人の学会での発表内容についてコメントした。

★学会発表 1回



運営計画会議を含む通算9回開催